

課題名	当院 Rapid Response System 起動の原因となった気道異常の特徴： 10 年間の解析
承認番号	2023-25 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属：集中治療部 氏名：熊城伶己
研究期間	(西暦) 2024 年 1 月 ~ (西暦) 2026 年 3 月
研究の意義・目的	Rapid Response System(RRS)は、患者さんの重篤な有害事象を軽減することを目的とした、バイタルサイン(血圧や脈拍など)の悪化などの急激な病態変化を早期に覚知し、対応するための院内急変対応システムです。RRS の効果に関する研究は複数あり、院内死亡率の低下、予期せぬ死亡の減少に繋がると報告されています。一方で、窒息・咯血などの「気道の異常」は院内・院外を問わず致死的で緊急の介入を要する状態ですが、院内急変の原因となった気道異常に関する研究はこれまでに殆どありません。本研究は、院内急変における気道異常の実態を明らかにするための観察研究です。
研究の方法 (対象期間含む)	2012 年 4 月から 2022 年 3 月までの間に、当院で RRS 対応の対象となった患者さんのうち、気道の異常により RRS 対応となった患者さんを対象とします。院内のデータベースから気道異常が原因となった患者さんを抽出し、カルテ記録を確認します。 本来であれば患者さん個別にご説明の上で御同意を頂くところではありますが、本掲示にて代用とさせていただきます。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	抽出した情報は、個人が特定できないよう、番号に置き換え匿名化したうえで研究者が責任をもって研究終了後 5 年間院内に保管、管理します。保存期間を超えた情報は匿名化されたまま廃棄します。データは学会発表と論文作成のみに使用し、前述以外の使用目的には使用致しません。
利用又は提供する 試料・情報の項目	調査項目：年齢、性別、BMI (body mass index)、Charlson 併存疾患指数(入院前からお持ちのご病気を分類、スコアリングし死亡率を予測する指数)、脳血管疾患の既往の有無、気管切開カニューレ等気道デバイス使用の有無、口腔ケアチーム介入の有無、嚥下リハビリテーション介入の有無、急変イベントの目撃の有無、急変イベント中の心停止の有無、退院時転帰(生存退院または死亡退院)
試料・情報を 利用する者の範囲	本研究における研究責任者、及び共同研究者(すべて当院集中治療部・救命救急センター所属)に限ります。
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	集中治療部 熊城伶己
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 集中治療部 熊城伶己 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101